モジュール専業で低コスト太陽光発電ニーズへしっかり対応

ジンコ・ソーラージャパン社長　孫　威威氏

ジンコ・ソーラーは、2016年の世界におけるモジュール出荷量が6.65GWで世界一位になった。同社は2006年に設立され、2009年よりセル・モジュールの製造を開始し、これまでのモジュール出荷量は累計で19GWに達している。ジンコ・ソーラーの日本法人社長であり、韓国、台湾エリアも統括するゼネラルマネージャーの孫　威威氏に、今後の事業展開についてお話を伺った。

－世界・日本での出荷量の内訳は

孫　モジュールの出荷量は、現在中国とアメリカで合計それぞれ25～30％程度を占める。そのほか日本を含むアジアでは20％程度を占めている。

また、2009年にセル・モジュールの製造を開始した際、最初に市場として開拓した地域は欧州だった。現在は欧州においてジンコ・ソーラーのモジュール出荷のうち８割程度を住宅向けが占める。ジンコソーラーでは現在中国、アメリカ、インド、日本を重要な市場と位置づけている。

－固定価格買取制度の価格低下について感想を

孫　太陽光発電のコストは日本だけで低下しているわけではなく、太陽光による安価な電力の供給実現こそが未来の形だ。ジンコ・ソーラーとしても、自社の技術やサービスを磨いていくことで、さらなる太陽光発電のコスト低下へのニーズにしっかりと応えられる。現状まだ詳細な数値は試算してないが、2017年の日本におけるモジュール出荷量は、2016年に比べて倍増すると予測している。ジンコ・ソーラーでは、セルからモジュールの製造までを一貫体制で行っている。世界で６カ所の生産拠点があり、今後の世界へのモジュール生産・供給能力についても問題ない。

－日本での今後の製品、業務内容は

孫　日本においては、現状モジュール出荷量のうち住宅用は20％程度で、多くは産業用途が占める。今後も日本向けに一層出力を高めたモジュールなども市場投入するほか、両面ガラスタイプのＮ型モジュールに関する研究開発も行っている。さらに家電量販店との協力推進や、展示会への出展などユーザーへのアピールも図る。

孫威威氏

ジンコ・ソーラーでは、パワーコンディショナなどの周辺機器開発は計画していない。あくまでモジュールの製品供給に注力する。高い技術力を活かしより高効率・高性能のモジュール開発に専念していく。ジンコソーラーは欧州市場に早期から参入し多くの実績をつくってきた。欧州でのパートナーが、現在は日本においても太陽光発電事業を展開しており、日本でも発電事業を手掛ける欧州のパートナーと協力していける。グローバル、そして日本における取引先から信頼を得ることで業績の最大化を達成した。

鹿児島徳之島でメガソーラーにモジュール供給

2,596kW／経産省補助活用した蓄電池併設型

ジンコ・ソーラーは、鹿島県徳之島の蓄電池併設型太陽光発電所にモジュールを供給した。ジンコ・ソーラー製270Wの太陽電池モジュールを9,614枚設置し、出力2,596kWのサイトを構築した。

今回の案件では、ジンコソーラーのEagleシリーズ高効率モジュールが、安定した出力と温度85℃、相対湿度85％の条件下におけるＰＩＤフリーの特性を持つことなどが評価され採用が決定した。

同事業では、リチウムイオン電池を利用した短周期抑制蓄電制御システムを併設している。プロジエクトの工事費は約12億円で経済産業省の補助金を活用してサイトが整備された。サイトのＥＰＣとＯ＆Ｍ業務は、太陽光発電施工業のユニバーサルエコロジー(名古屋市)が担当する。

画像提供はジンコ・ソーラー